

牛久市文化財めぐりを開催します

この秋、市生涯学習課では文化財めぐりを計画しました。この機会に、ぜひ市内の文化財や小川芋銭作品に親しんでみませんか。

日程 【Aコース】11月17日(火)午後1時～4時

「小川芋銭展と城中・シャトーめぐり」

得月院・雲魚亭・河童の碑・シャトーカミヤ(小川芋銭展)

【Bコース】11月27日(金)午後1時～4時

「市内城跡ハイキング」

牛久城跡・東林寺城跡・小坂城跡

※A・Bコース片方でも両方でも参加できます。

講師 【Aコース】小川未太郎氏(牛久市文化財保護審議会会長)

【Bコース】齋藤弘道氏(牛久市文化財保護審議会委員)

対象 市内に在住の方

定員 各コース20人※申し込み者多数の場合は抽選となります。

申し込み方法 はがきに住所、氏名、電話番号、希望コースを記入の上、下記までお申し込みください。※はがき1枚につき1人の申し込みとさせていただきます。

申込締め切り日 10月20日(火)当日消印有効

主催 牛久市教育委員会生涯学習課

申し込み・問い合わせ 市中央生涯学習センター文化財めぐり係(〒300-1211牛久市柏田町1606-1) ☎871-2301



【Aコース】河童の碑



【Bコース】牛久城跡

画聖 小川芋銭

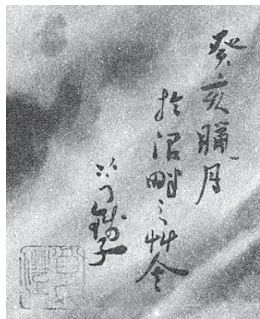
再び芋銭を考える⑪

芋銭にかかわる「通説」の中には、どうにも理解できないものがいくつかあります。それらうち、最も象徴的な説について記してみます。芋銭の代表作に「水魅戯」があります。これは、芋銭のどの画集にも収録されているので、絵の内容はたやすく知ることができます。

「水魅戯」は、大正12年開催の日本美術院展の出品作です。同展は、9月開催を常としています。この年の展覧会初日は9月1日でした。大正12年9月1日といえば、そうです、東京に大地震が起こった日です。「水魅戯」に関する奇妙な説は、この大地震に絡んで生まれました。

画面には、いくつかの水煙が立ち上り、その中にいろいろな生き物たちが動き回っています。後の世に、ある人が絵の異様さに着目し、「水魅戯」は、「大地震を予知したものだ」とペンを走らせました。そうすると、この説を継いだ別の人たちによって、「芋銭がこんな絵をかくから地震が起きるんだ」とまで、書かれるようになりました。こういった「河童の神通力」やら「地震予知」やらの説は、ごく最近まで疑われることなく継がれてきました。

では、事実はどうなのでしょう。「水魅戯」の画面の右下(上写真)には、「大正十二年十二月、沼のそばの自宅にて」と、絵をかいた時および所が明記されています。つまり、この作品は、12月に改めて開催された展覧会への出品作であつて、9月開催の展覧会とは、なんら関係がありません。「地震を予知」うんぬんは、話としては面白いのですが、事実に反するのですからどうしようもありません。



↑「水魅戯」の款識部

小川芋銭研究センター 北島健